

大淀中学校だより 『環』

祝 卒業

第 18 号
京都市立大淀中学校
令和3年 3月15日
文責 油谷

答辞 前生徒会長 I.N

(前号からの続き)

三日間の濃密なスケジュールで育まれた多くの思い出は学年全体の一体感をより確かなものになりました。大淀中学校で過ごす時間も残り半年を切った頃、今までで培った絆を活かす機会がやってきました。最後の体育大会、最後の合唱コンクール。どちらも三学年揃っての開催は叶いませんでしたが、全てのクラスが本気で頂点を目指していました。私はあれほど熱心に練習に取り組み、本番で全力を出し尽くした体育大会と合唱コンクールを経験したことはありません。あの二行事を通して、学年、クラスへの愛が深まりました。「いろんなことがあった」そんな言葉では語れぬほど濃密だった三年間。その幕が今日、降りようとしています。私達は今まで、数え切れないほど失敗し、つまづき続ける三年間を送ってきたと思います。ですが、何度でも立ち上がり、最後の最後には互いに笑い合える。そんな学年です。中学校生活の最後である今日も笑い合って旅立すると信じています。

在校生の皆さん、私達は先輩としての手本を見せられたでしょうか。学年間の交流が少なくなってしまうこと、大変口惜しく思います。ですが、在校生の皆さんなら不安を抱き入学してくる一年生も安心して受け入れることのできる大淀中学校を築けると信じています。私達以上に絆の深い学年を作り上げて下さい。最後に今まで親身になって厳しく、優しくご指導くださった教職員の方々。

そして、どんなときも深い愛で支えてくれた家族。また、いつも温かく見守ってくださった地域の方々。皆さんの助けがあったからこそ今の私達があります。本当にありがとうございました。

三年間の感謝と、これから歩む皆の未来への幸せを願って、私の最後の言葉とさせていただきます。

令和三年三月十五日
卒業生代表 I.N

送辞 生徒会副会長 S.I

冬の寒さも過ぎ、春の暖かさを感じられるようになってきました。

この良き日に、大淀中学校を巣立っていく三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。今、皆さんは喜びと寂しさで胸がいっぱいになられていることと思います。

三年前にこの大淀中学校の門をくぐり、数多くの思い出を作ってくられた三年生の皆さんは、未来に向かい新しい道を進もうとされています。私達もそんな先輩方と過ごしてきた日々が、今、思い出されます。三年生は私達が入学したばかりで、右も左も分からず、困っている時に優しく寄り添って下さいました。

部活動では私達が辛く、心折れそうな時に、もう一度頑張れるように笑顔になれるようにと、温かい言葉をかけて下さいました。先輩方のあの言葉があったから、今の私達があると思います。

でも、いつもの温かい先輩とはまた違う、試合や本番の時の力強く、真剣に取り組む姿も、とても格好良く、私達のあこがれでした。そんな先輩方の姿は私達の目指すべき姿だと思いました。

また、皆さんの熱意は合唱コンクールからも伝わってきました。私達は三年生の合唱を動画で見ました。しかし、画面越しでもひしひしと伝わってくる三年生の熱い絆や思いには圧倒されました。

生徒会活動や委員会活動では、先輩方が一人ひとりの個性を前面に出して大淀中学校の中心となり、学校を盛り上げて下さいました。新たなものを生み出そうとする先輩方が持っている力で、学校が動いているようにも感じました。その姿には私達を安心させ、前へ引っ張る力がありませんでした。

球技大会では、三年生の仲間を応援する声が校舎にも響いてきました。その声からも、仲間を思いやる心が伝わり、本当に温かい気持ちになりました。私達もそんな学年を作り上げていきたいと思いました。

そして三年生を送る会での後輩へのムービーには胸が熱くなり、先輩との思い出が次々と蘇ってきました。先輩方のあの一言は私達の背中を押して下さいました。私達はそんな先輩のことが大好きです。

本当は離れたくないです。寂しいです。しかし先輩方が見せて下さった姿を心に留めて、私達も日々前進していこうと思います。先輩方は、この変化の多いコロナ禍に卒業され、新たな道に進むことになりました。そんな時だからこそ、大淀中学校で培った自信と自分らしさを歩んでいって下さい。先輩方と共に、この大淀中学区で過ごせたことを私達は誇りに思います。

最後になりますが、皆さんのご健康とさらなるご活躍をお祈りし、送辞とさせていただきます。

令和三年三月十五日
在校生代表 S.I

校長式辞

ただいま「令和2年度第46回卒業証書授与式」において、
伝統と歴史ある大淀中学校を巣立ち行く102名の皆さんに卒業証書を授与いたしました。
卒業生のみなさん、『卒業おめでとう』

今、皆さんの胸中は過ぎ去った中学校生活3年間の数々の思い出と
未来への希望とで、さぞ一杯のことだと思います。

今日のこの喜びと感激を迎えることができたのは、皆さん自身のたゆみない努力もさることながら、
お家の方、保護者の方々の限りない愛情と小中学校の教職員の熱心な温かい指導、
そして地域の方々が、皆さんの成長を影になり、見守りご指導いただいた賜です。
このことを深く心に刻み、これからも感謝の気持ちで応えてほしいと思います。

この学年は一緒にいると、自然に心が安らぐそんな温かい学年でしたね。

私がいつも「元気ですか!」と声をかけると笑顔で応えてくれる。

そんな温かいみなさんが、3年間、大淀中学校で来る日も来る日も「自分磨きの旅」をして、
いろいろな努力を続けてくれました。

入学直後は期待と不安もあったことでしょうか、学校生活が慣れていくにつれ、たくさんの友達ができ、
体育大会や合唱コンクール、そして毎日の部活動にも精一杯頑張ってきました。

しかし昨年の3月、そんな充実した日々が突然、一変しました。

新型コロナウイルスによる休校、各種行事や大会、コンクールの中止や延期など、

「何で僕たち私たちの学年だけ、こんな思いをしなければいけないのか?」と、
とても悔しい思いをされたことと思います。

我々大人にとっても初めてのことで、皆さんにどうやって寄り添ってあげれば良いか
自問自答しながらの1年でした。

そんな日々の中でも皆さんと一緒にいった修学旅行のことは忘れないでしょう。

神戸フルーツフラワーパークでのバーベキュー、

淡路島での乗馬やイルカとのふれあい、シーカヤック体験など

辛抱に辛抱を重ねてきた皆さんが、いきいきとして楽しんでくれている姿を見て

私は胸が熱くなりました。

吉野川でのラフティング体験は急流にボートを揺らされながらも、仲間と協力して波を乗り越え、ゴールま
でたどり着いたその表情にはとても充実したものがありました。

まさに2学期はその直後に体育大会、合唱コンクール、そして進路決定と怒濤の日々だったと思います。

特に合唱コンクール、本当に熱かったですね。

皆さんの心と心が触れ合い、素晴らしいハーモニーとなりました。感動の一日でした。

そして皆さんは、様々な思いを持ちながらも、決して後ろ向きにならず、

大淀中学校を誇りの持てる学校へと前進させてくれました。

思春期真っ只中のみなさんは、時には、悩み、苦しみ、自分のことで精一杯の時もあったのではないでしょ
うか。

仲間とぶつかったことも、今となっては良い思い出になっているかもしれません。

でも皆さんはそれらを乗り越え、仲間のために、後輩たちのために、

そして大淀中学校のために、頑張ってくれました。

私は今、皆さんに心から「ありがとう」と感謝したいと思います。

さて、今日の卒業に当たり、私は、2つの話を皆さんに贈りたいと思います。

1つ目は「困難に直面したとき、最初からできない理由を探すな」ということです。

「困難はそれを乗り越えることのできる人へのみ与えられる」といわれています。

これからの人生の中で、皆さんは大きな痛手を受けることもあるでしょう。

信じていた人に裏切られたり、思わぬ事故やハプニングで、

心の傷が癒えない苦しみを味わうこともあるかもしれません。

時には自信を失い、孤独を感じてしまうこともあるでしょう。

人生はまっすぐの平坦な道ではなく、曲がりくねった迷路のように、

行き先さえ見つけにくいこともしょっちゅうです。

そんなピンチの時に最も大切なことは、何だと思えますか?

それは自分自身の考え方です。

成功者といわれる人達は共通して、とんでもない苦しみを乗り越えてきた経験をそれぞれお持ちです。

その苦しみの中からどう立ち上がるか?

これこそがその人の人生の価値を作っていくのだと私は思います。

(次号へ続きます)